



第18回総代会が開催されました

県事協第18回総代会が8月9日県教職員互助組合会館にて開催されました。

当日は台風の影響も心配される中でしたが、県内各地から地区の代表である総代が集まり、充実した審議がなされました。

冒頭、会長より「県下の学校事務職員が等しく情報を共有・享受し、広域的に連携する」といった県事協の目標と、今後も私たち学校事務職員が自ら造りあげ、更に充実されていくために会員の皆さんの協力をお願いします、とのあいさつがありました。

続いて来賓の共助会、互助組合、教職員共済、学校生協（福利厚生事務センター）、鹿教組の代表の方々から日頃の感謝と激励の言葉をいただきました。そして最後に県教育庁教職員課と総務福利課からのメッセージを紹介いたしました。

引き続き、日置地区の内田ひとみさん（上市来中）を議長に北薩地区の福崎洋昭さん（水引小）を記録に選出し、第1号議案「事業経過・決算報告に関する件」、第2号議案「事業計画・予算案に関する件」、第3号議案「役員承認に関する件」が審議され、すべて承認されました。

第2号議案の「事業計画・予算案に関する件」では、旅費起点表の整備や5年ぶりとなる会員アンケートを実施して今後の県事協事業の参考にさせていただくこと等の計画が示されました。

これらのとりくみにより、「県下の学校事務職員が情報を共有・享受し広域的に連携する」県事協の役割を果たして参ります。

また、役員体制も変わります。常に「会員のために何ができるか・必要か」を考え、その実現のため、役員に発破をかけながら突き進んだ副会長の靱木満州男さん（中山小）と、会計担当理事や広報担当理事を歴任して、実に5年間という長期間に渡り、県事協役員の生き字引として頼りにされていた伊尻健さん（手藁小）が退任されました。本当にありがとうございました。

後任は、新副会長に鹿児島地区の柳原久行さん（星峯西小）、新理事に清藤利裕さん（万世小）が選出・承認されました。また、監事には南薩地区の星崎武志さん（内山田小）と北薩地区の野崎浩一さん（米ノ津中）が選出されました。

今後とも、会員の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いします。

【今年度新役員体制】

役職名	氏名	地区	学校名	備考
会長	福崎 真澄	北薩	切通小	
副会長	柳原 久行	鹿児島	星峯西小	新任
理事	井上 早苗	始良伊佐	大口中央中	
	靱 大成	北薩	極脇小	
	清藤 利裕	南薩	万世小	新任
	小隈 美香	鹿児島	花尾小	
	園田 真一	大隅	月野小	
監事	星崎 武志	南薩	内山田小	新任
	野崎 浩一	北薩	米ノ津中	新任



今年も各地区から総代の方々が集まりました。

理事役員退任のごあいさつ

中山小学校 靱木 満州男

先日「舟を編む(ふねをあむ)」という映画をみました。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、そのあらましは、出版社の隅に追いやられた辞書編集部が社員たちが「大渡海」という事典の編集にかけた10年以上もの作業と、その間に起こった人間模様を描いたお話です。

少し、内容をお話します。

その辞書編集部では「辞書は言葉の海を渡る舟」という意味を込めた「大渡海」という中型事典の編纂作業を行っていました。

編集部員は、日々の生活の中で新しい言葉や新しい使い方を耳にしたら「用例採集カード」に記録していきます。

主人公の馬締(松田龍平)は、下宿先である早雲荘の上の階に住んでいましたが、ある日、主のタケ(渡辺美佐子)の孫で板前修業中の香具矢(宮崎あおい)が同じ下宿に住むことになり恋心を抱くようになります。

それから10数年が経ち、主のタケは亡くなり、結婚した馬締と香具矢が早雲荘で暮らしていました。その間若い編集者も加わってよいよ「大渡海」の出版は翌年の3月に決定していましたが…。

後は原作を読むか、映画をご覧ください。

ここで、私が何を言いたいかわかりませんが、すでにお気づきの方もいらっしゃると思いますが、この映画どこか県事協のマニュアルや実務手引書の編集作業などに似ているということです。

その一つ目。馬締は事典の紙質にもこだわりを持っており、ページをめくる指触りに注文をつけていました。これも大事な視点だなと思います。

二つ目は「用例採集」です。現代言葉や若者言葉など編集部員は町に入り込み「じっと市井の人々のことば」に耳を傾けていました。

そして最後の三つ目は、長い年月と大勢の熱意がこの事典を完成に導いた、ということです。県事協は、「県下の学校事務職員が等しく情報を共有・享受し、広域的に連携する」ために活動すると、年に一度の総代会でその目的を確かめ合っています。

これからも県事協という舟はその漕ぎ手を変えながら、皆様とともに新しい海を渡っていくことと思います。私もその一人であったことを胸にオールを後任に手渡したいと思います。

この2年間のご支援、大変ありがとうございました。

手蓑小学校 伊尻 健

5年の期間でしたがこれまで様々な場面で支えてくださった各地区の評議員の皆様をはじめ、会員の皆様に心から感謝申し上げます。

県事協では会計担当を1年間、広報担当を4年間務めさせていただきました。会計担当として運営の在り方を学び、広報担当の際には、「県事協だより」や「県事協ホームページ」の執筆や更新を行ってきました。

「県下の学校事務職員が等しく情報を共有・享受し広域的に連携する」ために県事協はあります。この大きな目標に自分自身どれだけ役に立てたかはわかりませんが、いつも仲間の皆さんに支えられ、「みんなで創りあげる」という気持ちを心から学ぶことが出来たのは、本当に大きな宝となりました。最後に、この貴重な体験をさせて頂いた県事協に感謝し、今後益々の発展を祈念して退任のあいさつといたします。ありがとうございました。

副会長就任のごあいさつ

星峯西小学校 柳原 久行

この度県事協副会長をさせて頂くことになりました。学校でほぼ独任制の私たち学校事務職員にとって事務職員組織は必要不可欠なものです。その中のひとつとして県事協が役割を果たせるように皆様と一緒に進めて参りたいと思います。

どうぞよろしくお願い致します。

理事就任のごあいさつ

万世小学校 清藤 利裕

今回、鹿児島県公立小中学校学校事務職員協議会へ理事として参加することになりました南さつま市立万世小学校の清藤 利裕と申します。

学校事務職員として特別な能力や技能があるわけでもありませんが、鹿児島県の学校事務職員業界全体の発展の手助けができればと思っております。私の周りの先生方、理事会の先生方の助言をもらいながら頑張ります。以後よろしくお願い致します。

学校事務現状報告会を開催しました

今年で9回目になる学校事務現状報告会が8月9日県教職員互助組合会館にて開催されました。今年度は県下各地から108名の参加者がありました。

2地区の実践報告の発表と質疑応答を全体会で行い、さらに発言の機会を増やすため、ふたつの分散会で意見交換を行いました。

一本目の報告は、北薩地区学校事務職員研究協議会による「入来地区3小学校の再編と支援室との連携について」。これまでの現状報告会ではレポーターは二人体制でしたが都合によりおひとりでの発表となりました。事前に地区の研修会でも発表するなど準備万端で分かりやすい発表をしていただきました。全体会では「廃棄の状況は?」「他の職員との連携は?」「閉校に伴う支援室の再編は?」等々、経験する機会の少ない、しかしながら今後さらに進む少子化により経験するかもしれない閉校とそれに伴う学校再編について活発な質疑がありました。PTAの会費をどうするかといった大切なことを決める会議にPTA会計を担当することの多い学校事務職員が参加できなかった結果、再編後に混乱して、結局学校事務職員が苦勞するといった、学校にありがちな、けどなかなか克服できない「組織として機能していない学校」という大きな課題も報告され、みんなで考える機会にもなりました。



二本目の報告は、熊毛地区学校事務職員連絡協議会による「熊毛地区 学校事務支援室の現状と実践報告」という報告でした。採用5年目という二人の若い報告者が、会場のまるで我が子を見守るかのような暖かい雰囲気の中、まわりの心配をよそに堂々と分かりやすい発表をしていただきました。また熊毛地区からの参加者や元熊毛地区の参加者によるサポート体制も万全でチームワークの良さを感じる発表となりました。内容は、主に種子島における単身赴任手当に関する資料をつくり活用をしているというもので「資料の内容は素晴らしい。今後、資料の内容に変化が生じたときの管理維持のための手立ては?」等の質疑がありました。発表者が若いこともあり、若い参加者も活発に発言されて、様々な世代の意見を聞くことができるいい機会となりました。

また分散会では「学校事務職員の頑張りに刺激を受けた。」「再編にしても単身赴任の資料にしても学校事務職員だけの問題ではないので、いかにまわりを巻き込んでいくかが大切では?」など活発な意見交換が行われていて終わってみれば、あっという間に終了しました。

ほとんどの学校事務職員は、普段は学校にひとりですが、集えばこんなにたくさんの仲間がいて同じような悩みや想いが共有できることを心強く感じることができました。

当日参加者に書いていただいたアンケートでも、どちらの発表も若手からベテランの方まで「元気をもらった」「参考になった」とたいへん好評でした。また運営面について今後の課題やアイデアなど貴重なご意見もいただきました。学校事務現状報告会は、アンケートの意見を取り入れ、受付の机の配置をはじめとした細かい変更も含めると、毎年何らかの改善をしています。

今後も会員の皆様で「よってたかって創りあげる県事協」であり続けるためにご意見を寄せていただけたらと思います。

最後になりますが、今回報告をいただきました北薩地区及び熊毛地区の学校事務職員会の方々、当日運営にご協力いただきましたの方々、またご参加いただきましたの方々、本当にありがとうございました。



大島地区公立小中学校事務職員協会の紹介

大島地区公立小中学校事務職員協会
名瀬中学校 新地 茂子

うがみんしょーら（こんにちは）、奄美大島（群島）は鹿児島から南へおよそ380 kmに位置し、全国の離島の中でも、沖縄本島、佐渡島に次ぎ3番目に大きな島です。地図を参考にしながら読んでいただけたらと思います。

奄美大島本島（加計呂麻島・請島・与路島）
49人（支援室数7）・喜界島3人（支援室数1）
・徳之島25人（支援室数4）・沖永良部島13人
（支援室数2）・与論島4人（支援室数1）計94名の
学校事務職員が、おおよそ180 kmの洋上に点在する
8つの島から、年2回（6月・10月）開催される
地区研修会参加のため、奄美市内の会場に集まります。



1回目の研修会・大事協総会後は全会員の親睦を図るため、大島教育事務所総務課の皆さんも含めた交流会を開催しています。毎年、多くの方が参加し、名瀬の天文館？屋仁川通りに繰り出しおおいに盛り上がります。新規採用者が多いため、同期会も発足され、仕事上の悩みや時にはプライベートの相談がなされ、固い絆が生まれる場でもあるようです。

2回目の研修会時には、大事協の研修発表枠を設けていただいているため、県事協現状報告会の還流報告や各市町村の研修報告・情報交換を行い、地区内の緩やかな繋がり・親睦・融和・資質向上を目指して実務研修の充実を図っています。大事協だよりも年4回発行し、各地区の支援室の取組状況・産地のおすすめ情報・新規採用者の声等を届けています。大事協の理念の「輪」を大事にしつつお互いの資質向上に向け、ベテランは若年層に刺激を受け、若年層は先輩の背中を追いかけ、切磋琢磨し情報を共有・享受し広域的に連携を図っていききたいと思います。



（大河ドラマ「西郷どん」ロケ地 宮古崎（大和村））

（住用のマングローブ「モダマ」世界最大の豆）

鹿児島県教職員福祉事業連絡会からのお知らせ

鹿児島県福祉事業連絡会とは教職員のための福利厚生事業を行っている下記の5つの団体で構成する連絡会です。

- ☆ 公立学校共済組合鹿児島支部
- ☆ 鹿児島県教職員共助会
- ☆ 教職員共済鹿児島県事業所
- ☆ 鹿児島県教職員互助組合
- ☆ 鹿児島県学校生活協同組合

教職員の皆様方が学校・職場で安心して働くためにご自身の健康管理や病気をした場合の給付、冠婚葬祭時のお祝い金や弔慰金、人生の将来設計のための各種保険(共済)などの福利厚生事業を行っています。

公立学校共済組合から

- 組合員証(被扶養者証)の再交付について
公立学校共済組合員として交付された組合員証や被扶養者証(以下「組合員証等」という。)の紛失、誤廃棄、破損等が多数見受けられます。

組合員証等は、場合によっては身分証にもなりうるものであり、組合員証等の亡失又は盗難により、思わぬ被害を受けることにもなりかねませんので、保管には十分注意していただき、大切に取り扱いってください。

- 他人の行為により負傷した場合について
組合員又は被扶養者が、交通事故やけんか等でケガをさせられた場合など、他人(自分以外)の加害行為により負傷した場合は、その相手が治療費(総医療費)を負担することになります。

しかしながら、相手に治療費を負担させることが困難な場合は、医療機関等で組合員証等を提示して治療を受けることもできますが、この場合は、公立学校共済組合が一時的に医療費(総医療費の7割又は8割)を立て替えて医療機関等へ支払った後、相手へ請求することになりますので、組合員証等を提示して受診するときは、組合員から共済組合への届出が必要になります(過失割合を問わず届出は必要です)。

あんしん むすぶ ● 教職員共済 鹿児島県事業所

自然災害共済を付帯する人が増えています
台風の強大化(宮古島で風速62m、千葉で57m)

- ① 火災共済に、自然災害共済を付帯すると補償が充実します。
- ② 火災共済(火災保険)だけでは地震での火災は補償されません。
- ③ 自然災害共済の掛金が地震保険料控除の対象になります。

(例) 木造標準タイプ200口加入(全壊の場合)
(一部損壊でも自然災害共済を付帯した方が、給付が多いです)

火災等の補償 2000万円、
風水害等の補償1450万円
(火災共済から450万円、自然災害共済から1000万円)

地震等の補償 400万円
掛金 35000円(年)
控除金額 14920円

自然災害共済は、いつでも付帯することができます。
手続や見積金額については、
鹿児島県事業所へお問い合わせください。



鹿児島市山下町4-18(教育会館内)
Tel 099-225-2587
Fax 0120-974-348

教職員共済ホームページ
<http://www.kyousyokuin.or.jp/>

教職員共助会から

「声かけ」ありがとうございました！！

2018年度は、416名という新規会員を迎えることができました。さらに本年度は、9月1日付で、新たに256名の会員を迎えることができています。これらの数字は、事務の先生方の声かけとご協力の賜物だと思っております。

2018年度は、入会記念品の他に、キャンペーン企画として、新規入会の中から抽選で、50名の方に5,000円のクオカードを贈呈いたしました。本年度もこのキャンペーンは継続中です。また、新規採用教職員の方で早速入会された方については、2018年度同様、入会グッズとして「印鑑入れ」又は「指し棒」をプレゼントしております。さらに、本年度は創立百周年記念として、本年度の入会者には、百周年記念品を贈呈の予定です。

10月3日には、「私の共助会利用法」というテーマで、「共助会だより」を全教職員に送付をいたしました。事務の先生方には配布や事業説明等ごめんどうをおかけしますが、今後ともよろしくお願ひします。

2019年10月10日 鹿児島県教職員共助会

学校生協からのお知らせ

KGCカードを指定工場を使った値引きとギフトカードをゲットしませんか

日頃から、県事協の会員の皆様には学校生協、教育用品、福利厚生事務センターへのご協力、また、同僚の先生方への生協の情報提供のなどお手伝いいただき感謝申し上げます。学校生協からのお願いや情報提供は毎月の生協だよりで行っていますが、今回はKGCカードと指定工場利用についてお知らせいたします。

- ① 学校生協組合員証（KGCカード）を使って、指定工場で車検・修理（車販売を除くほぼすべての項目）などを行い、支払をカード1回払いにすると、代金（合計）の8%を割引きます。
- ② ①の利用促進として2019年7月1日から2020年2月29日までの①の利用者に合計30名に総額20万円のJCBギフトカードをプレゼントします。是非ご利用ください。

活動経過及び予定

7月29日	県費事務改善検討委員会
8月9日	第18回総代会 第2回評議員会 学校事務現状報告会
8月26日	県費事務改善検討委員会
9月12日	理事会・常任委員会
10月8日	理事会 県教委へ点検依頼
10月11日	印刷サービス送付先調査依頼
11月15日	県教委へ点検結果受領
11月29日	理事会

編集後記

前副会長の退任のあいさつで触れられている「舟を編む(ふねをあむ)」に触発されて辞書を購入しようと思い立ち、書店に赴いたものの、目移りをして決められず、結局購入したのは糖質制限ダイエットの本…。一昔前までは当たり前だった辞書を引く習慣がネット検索に置き換わったのはいつの頃からでしょうか？ 学校における唯一の行政職として言葉には拘っていききたいものですね。

県事協ホームページのご案内

http://www.kyojo.jp/kenjikyuu/top_screen.html